酪農教育ファームで人を変える酪農家を目指して

神奈川県立中央農業高等学校 畜産科学科　3年　二見 賢人

私の家は酪農家ではないです、しかし私は幼い頃に近所の酪農家さんの放牧場にいた乳牛たちがのんびり気持ちよさそうに歩いていたのを見てから、牛達と暮らせる仕事、酪農を経営したいと考えるようになり、中学卒業後は農業と畜産が学べる中央農業高校に進学しました。

高校入学後、大きな畑での飼料栽培や搾乳実習、そして、楽しみにしていた新しい命の誕生の瞬間などを心と身体で経験していく中で「農業って素晴らしい、本当に酪農を経営したい！」と酪農家になりたい気持ちがさらに強くなりました。そして高校２年の時は「意見発表会」に酪農を題材に出場、校内大会を勝ち抜き県大会へ出場するなどをし、学校生活を送っています。

酪農をやりたいという気持ちは強いが、酪農の今を聞いたり調べたりすると心配なことが次々と出てくる。原油価格高騰からなるアメリカのトウモロコシ飼料価格が上がっていること。そこから繋がってくるのは牛乳の価格上昇、そして清涼飲料水の普及や牛乳特有の臭いが苦手な子供が増えていることから牛乳の消費量が増えずにいること。私が夏休みの農業体験でお世話になった酪農家さんからは「昔と違い、今は土地代も高くなっている」、「飼料価格高騰が理由で廃業した仲間も少なくない」というお話も聞きました。私は本当に酪農を経営することができるのかと深く思い悩むこともありました。

将来私が普通の経営をすると私も廃業してしまう可能性もあります。しかし、私が所属している部活「酪農部」の活動の中にヒントがありました。

酪農部の活動の中には「酪農教育ファーム」があります。社団法人中央酪農会議が全国の認証牧場を中心に展開している酪農教育ファームは牛と牛乳の話、そして実際に牛のあたたかさに触れ、搾乳などの作業を通し、食の大切さ、命の尊さ、生産者の思いを多くの人々に伝える活動です。私の学校も認証牧場の一つで毎週土曜日に予約が入り次第開講をしています。私は将来の酪農経営にこの活動を是非取り入れようと思っています。日本人は年間約1900万トンと大変多くの食材を廃棄していること、牛乳嫌いの子供が増えていることを知った私は、「食べ物や牛乳などの食に感謝する心、また、生産者が必死で生産してくれていることへの感謝」、そして、その全てを取り巻く「いのち」の大切さを理解する人々が増えていけば、おのずと食べ物の廃棄は減り、牛乳もたくさん消費されていくと思います。

また、私は課題研究でも酪農教育ファームを題材として活動しています。ある日、近所の中学校から「命を身近に扱っている中央農業高校さんに中学1年生に向けた「食育」の

授業を行って欲しい」という依頼が入り、私がその授業構成をすべて任せていただくことになりました。50分という中で中学1年生約300人の生徒に向けて「食」を上手く伝えられるのかが心配であり、中学校側の期待に応えられるかという不安。そして自分が「食」を伝えるという大きな責任感を胸に、授業のテーマを「食へ感謝の心を持つ」に設定。酪農教育ファームを取り入れた授業作りをしました。

本番当日。生徒達は皆前をしっかり見て話を聞いてくれていて、私が学校で行ったブロイラーの解体の写真を見せた瞬間に驚いた表情と共に生徒一人ひとりが「食」とはどういう物なのかを考えてくれているようにも思いました。牛と牛乳から生産者の思いを伝え、こちらからの問いかけやクイズには中学1年生らしく元気よく答えてくれ、生徒が飽きないような授業展開をしながら最後まで終わらせることができました。その中学校の校長先生からは「生徒があんなに静かに聞いていたのは初めて。クイズや見やすいパネルを使って変化のある授業展開をしてくれた。」とありがたいお言葉をいただきました。自分で構成した授業が成功したことにとても大きな達成感を得ました。

また「食材を生産してくれる人や食材になる動植物に感謝しているか」というアンケートの質問に対して授業前に感謝していると答えてくれた生徒が40％だったものが、授業後には90％と約50％の増加が見られました。「牛乳を前よりも飲もうと思いましたか」という質問では全体の80％が飲もうと思うに回答をしてくれました。その他の質問でもすべてのパーセントが増加、感想を書く欄には「牛などを育ててくれている人がいるから、私たちは生きることができている、食べ物を大切にして感謝しようと思った」という感想もあり、私の授業が効果的だということがわかりました。

飼料価格の高騰は私の力では変えることはできません。しかし、私の頑張りで人々の心を変えることができると思います。私は「食と命」を伝えたいと強く思うようになり、その方法として「酪農教育ファーム」を活用していきたいと考えました。そして、人が呼べる牧場として経営していくために私には気をつけたいことがいくつかあります。一つめは、子牛の頃から愛情をたっぷりと与え優しい乳牛を育成すること。これは人間と牛との安全性を保つのみならず、牛に初めて触れる人が触れたいと思えるような乳牛にすることで、教育ファーム自体が進行しやすくなると考えたからです。そのためには、私自身が牛の立場になり物事を考え、決して牛に暴力を振るわないように心がけます。二つめは、牛舎内環境をなるべく清潔に保つこと。これは牛のカウコンフォートとしては当たり前のことだが、畜産をやるにあたって糞尿による臭いは必ずついてくる仕方ないものではなく、なら私はその臭いをできるだけ抑えるために、牛の身体についた糞は毎日のブラッシングによりおとす、牛床についた糞尿は定期的に水洗い、牛舎の換気などの努力をしたいと考えています。そうすることにより、臭いを心配して来ていた人がいたとしても牛舎環境をととのえておくことにより牧場の印象を

変えることができると考えています。

生まれも育ちも神奈川県の私は親元を離れ酪農の聖地北海道の四年大学へ進学を希望しています。大学では地域を活用した農業経営を学ぶことができるため、教育ファームから地域住民を巻き込んだ酪農経営について研究に没頭したいです。農家アルバイトとして酪農家さんと交流しながら酪農の知識を深めていきたいと考えています。

そして、準備期間を経て、自らが思う酪農経営を実現させ、酪農教育ファームから人々の心を変え、「食と命」を大切にする心を今より増やすことが私の目標です。日本の酪農界を私のような若い力で支え、飼料価格高騰などに負けないような酪農経営を目指します！